The Seizin Eiga no. 20

SHINBASHI・TOKYO

特集＊ハダカの……あなたは？

ずばり・いんたびゅう

成人映画

●パチンコでジャンジャンもうかる2時間8倍術のくわしいやり方がいよいよ公開されました！

このやり方はあなたの近くのパチンコ店でスグやることができ、クギのまがり（調整アト）をす早く見破る秘法、その日の温度とシツ度の科学的な応用秘法（天気により変わる）、ひねり打ち、浮かし打ち、さぐり打ち、チューリップのしだれ打ち、△※法で毎日六千個も出すやり方、ジャンジャン出る連続早打ち術、バネの良し悪しで見ぬく秘法…など全部できてモノスゴクもうかります！このやり方で関西の鈴木さんは半日で四千円、九州の石田さんは二時間で二千百円、東北の佐藤さんは一週間で二万以上もうけている！くわしいやり方の資料を本誌愛読者に無料でさしあげますから、あなたも**2時間8倍術**でガッポリもうけてください！今回に限り資料説明書無料進呈です下の請求券をハガキのウラにはって今日いまスグ近くのポストへお出しください

申込み先〜東京都玉川局区内一日本パチンコ技能研究部 成人係

パチカタ 資料一部 今回一回限り 請求券

●男性を救う!!

☆自宅で包茎も早漏もピタッとなおりどんな短小もモリモリ増大する無痛式自宅増大医学がいよいよ公開されました！

●いよいよ公開された男性強大の無痛式自宅整形医学は、世界でもっとも進んでいる西ドイツの人体医学に立脚して医学博士秋吉隆夫、平野昭平両先生が日本ではじめて公開された『男性機能増大秘法』であります。すなわち、貧弱な細茎を太茎に、短小を長大に、包茎を正常になおして、しかも亀頭冠の肉質細胞を拡大延長する方法を無痛医学と細胞医学の研究成果によって手術も注射もせず、自宅で誰にも知られずスグできる無痛式完全増大医学であります。

●自宅でできる

●まず包茎は亀頭部分が包皮によっておおわれているため表面が非常に敏感となり、どうしても早漏症になります。この早漏症の悩みは何ともたえがたいもので、わずかの時間でダメになるため男性としての正常なる機能をはたすことができず、結婚してもうまくいかず、一生がいにわたってカタワモノあつかいされ女性にきらわれて過ごさねばなりません。

●この恐るべき包茎の苦しみから一日も早く脱出する方法——つまり自宅でスグできる仮性包茎の完全なおし方を秋吉博士の秘法は教えているのであります。

●短小というのは標準サイズ以下のもので、その標準サイズは各医学者のデータを平均してみますと、長さ十二・七センチ、周径（マワリ）十一・五センチとなっています。

ところが細胞医学の開発が遅れていたため、今までの人々はサイズというものは生まれつきのものでどうにも仕様のないものとあきらめざるを得なかったところ、西ドイツの人体医学に立脚して苦心研究され、手術も注射も打たず自宅で貧弱な細茎を太茎に、包茎を正常にピタッとなおすことができる無痛式の『自宅完全増大医学』が医学博士秋吉隆夫、平野昭平両先生によっていよいよ公開されたのであります。

●増大医学公開

●この自宅増大医学は異物注入などの人工整形ではなく、その物自体の細胞組織の肉質細胞を急速にふやして増大する方法ですから永久強精長大化され、どんな短小も包茎、早漏、夢精、中老性萎縮症、回数減少症、病質性自慰症、弱精不能症、感覚減退症もピタッとなおり亀頭部拡張しモリモリ増大するのであります。今までにどんな高価な強精剤をのんでもさっぱりききめのなかった人に必ず驚異的効果があり、久しぶりに二十代初期の若さとはげしい強性がよみがえり、必ずモリモリ増大するのであります。

●専門に研究された医学博士の先生が、誰にもスグ実行できるようくわしい図解と絵入りで親切ていねいに指導されているのです。年令は六十八才くらいまで必ずスグ自宅でできるのであります。

●ただ今特別公開記念のため、切手七十円をフートーに入れて『増大医学の公開案内送れ』と申しこめばスグ急送します！さあ！あなたも一日も早く自宅で完全増大して人生最高の幸福をつかんでください!!

○申こみ○あて先〜東京都玉川局区内一●日本細胞医学研究室指導部 成人係

成人映画 No.20 目次

表紙■林 美樹

ただいま撮影中

「…の挑発」

督

シャワーシーンの美矢かほる

「青い暴行」でユニークな力量を示した新藤孝衛監督がこんどは「桃色の挑発」を美矢かほる主演で撮っている。ほとんど一カ月に一本のペースだ。ロケ現場は渋谷道玄坂のあるホテル。ホテルを借りての撮影だからもちろんベッドシーンである。部屋の前にゴタゴタとライトのコードなんかの機械がおかれ、入ってみると窓を黒いカーテンで被い、ライトをつけて、いましも美矢かほると鶴岡八郎がベッドシーンの最中。新藤監督の作品テーマはいつも前向きで、好感がもてる。社会の矛盾や、女のセックスの悲劇を訴えかけようとしている姿勢がある。温厚で、まずこの世界ではピカ一の紳士監督だろう。

《解説》親の都合で結婚させられそうになった娘(美矢)が一定期間だけ、自由奔放に遊び終えるとやがて自主性を失った女として――結婚する――という女性像を描く。

　原宿族に仲間入りした女を通して現代の原宿族を生んだ

家庭と社会環境をも問い正してみようというわけだ。
「作家的な満足度と興行的な成績面（ショウバイ）とを、うまく噛み合わせるところが大変ですねえ。それぁーいろんなイヤなことがある。でもいまそうした状況の中ででも作って行かねばならないのが製作者側の苦しい立場なんです…」深刻な表情になってきたところで、話題をかえよう。

撮影はこの種の映画のヤマ場であるベッドシーン。美矢はボリューム豊かなからだをパンティ一枚のスタイルで、ベッドに横たわり、鶴岡八郎が、彼女の下半身からキスしてゆく…というくだりだった。ことさら新しいベッドシーンの描写はみられないが、丹念に撮るところはいかにも新藤監督らしいキメの細かさだ。

ひところピンク映画のトップスターだった絵麻アキが、この作品のスクリプターをやっているではないか。これで二本目だが、沼尻真奈美の名前でタイトルにも出ている。

「桃色

女の性の悲劇に取り組む新藤孝衛監

「なにごとも勉強のつもりで…」といいながら撮影シーンの記録をやっていた。ベッドシーンのあとはシャワーシーンというので、フロ場にライテングがはじまる。フロ場に入った美矢はデルタ地帯に肉バン（肌色の特殊のバンソウコウ）をピッタリと貼っていた。これまでのピンクスターはシャワーシーンでバタフライをつけたためしはない。オールストレートであった。それにくらべると美矢もそろそろ〝お年〟かいなーと感じたものだ。

「とにかくこんなに悪い状況の中で、映画を作るのは考えてみればナンセンスみたいなもんですよ。この世界のある大手の映画会社に作品買いとりで一本渡したとするでしょう。すると五十万円ぐらい気前よく金をくれるが、あとはチョビチョビ、ひどいのは一年もかかってやっと回収する有様なんですよ。作ってる弱小プロは残酷物語ですよ。なんとかこれを打開するには映画館をわれわれの手でにぎることなんですよ」もうかるのは配給会社と映画館だけというわけだが、それは邦画五社の場合と少しも変っていないのだ。この辺の不合理性をどう打開するか、この独立プロ映画界が明るい方向に進めるのは、配給業者の真の改革にある——と新藤監督はいうのである。

ベッドシーンを演出の新藤監督

この作品でまた一人河村奈美という新人がデビューする。原宿族の出身で、この日入浴シーンをやっていたが、彼女の陽焼けはもの凄いばかり。バストのあたりはビキニの水着のあとが白く残っていて、まるでブラジャーをしているようだ。「恥しい」といいながら新藤監督の要求によく応えていたが、新人発見のうまい彼は「河村クンをスターにしたい。それだけの魅力がある——」と保証した。

一星ケミ

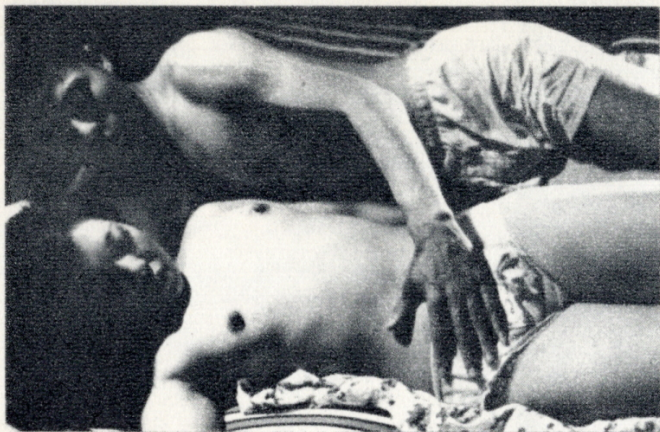
ただいま撮影中

車と金とセックスと「夜のただれ」

山本晋也という監督がユニークというより極めて、常識的でロマンの豊かな人物だということはさきのオムニバス映画「ある密通」の「色夢」や一連の作品で、その作家的態度にかい間みることができる。こうした作家がもっとこの世界の映画界に多く出てくるとおもしろくなるだろうに。

一本撮り終えたばかりの山本監督と新宿のスナックバー「ユニコン」で待ち合わせる。

ところで、「ボクは真っ向から取材されたのはいまがはじめてなら、雑誌に物を書いた(前号わが映画セックス論)のもはじめてなんですよ」と幾分色のよくなった、笑うと目がなくなるカオで笑って控え目なのである。いま若手の監督で期待されるのはこの山本と、山下治くらいのものと思うが、その山本の魅力はなんといってもパロディを理解できる作家であるということだ。喜劇的要素が極めて少ないこのピンク映画界で、山本のセンスは育てたいし貴重だ。(山本氏はエロダクションやピンクじゃなく〝ピンキイ映画〟を主張していなさるけれども…)

彼はこのごろのこの映画界を彼なりに分析している。つまりドンドン生産される自動

車とあまりよくならない道路そこに交通事故や、マイカーといわれながら逆に不便さをかこっている人たち。人間が、機械文明によって支配され、その機械によって命脈を絶ってゆく、これは悲劇であると同時に喜劇じゃないか―というのだ。これがそのままいまのピンク映画界にピタリあてはまるという。安い製作費、テーマもひったくれもないハダカ、ベッドシーン、それでよろこんでいると思いこむ製作者、配給業者、「金」だけが総てを支配し、その結果が、自分の首を締めている―だから車―とピンク映画の現実はよく似ているというのだ。こんどの「夜のただれ」はやはり車と密着している。林美樹が男をひき逃げし、その現場をみていた男(武藤周作)に強迫される。女は男を殺そうとひき逃げするが、こんどは前にひき逃げした男の女房に強迫される。そこにはセックスが介入せず女と女は〝金〟だけが中心になる。だから〝金〟だけが支配しているこの作品の如く、いまの映画界も作品内容よりも〝金〟に比重をかけ過ぎている。車の暴力性をテーマにしながら交通戦争と女の性(さが)が入りくんで描かれる。

「ボクはこの世界に感謝してます。アントニオーニのようなカットも実験も自在に使えるのだ。しかしボクらはあくまでもみる人をひっぱってゆく魅力のある作品を生むのが使命なんです」

ひところ彼は「ピンク女優はもう使い捨てていいですね。映画はそのときの作品のイメージを尊重するから、大島渚監督の作品の如く、作品を生むたびに新人女優をスカウトすることだ―」と強調する。

「次回作は岩下志麻を使えと至上命令でやるより、自由に自分勝手に女優を選定して使える楽しみ、これはピンク映画の最大のおもしろさではあるまいか。

その点を考えると作りたいもの、いいホレた女優、その組み合わせによって邦画五社にはみることのできない作品ができる。可能性は存分にあり、夢がある―」という山本監督の他面的な柔軟性はやはり楽しみ多い作家といえるのではあるまいか。

ただいま撮影中

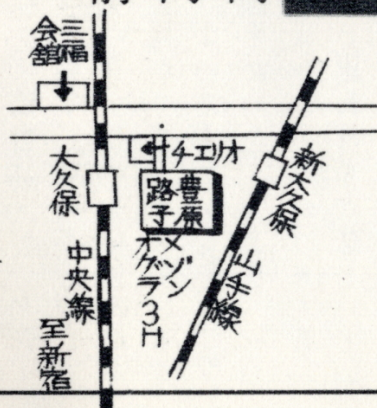
「恥かしい技巧」

向井プロ作品

裸体が美しい水城リカ——

里見孝二と水城リカ

向井プロで撮っているのが、「汚点」。主演が水城リカと里見孝二。新大久保の向井プロのマンションの四階を借りて、ここで水城と里見のベッドシーンがあるというので出かける。監督は向井寛。

このごろは向井寛センセイも監督業よりプロデューサー業に精を出しているようで、その方の才能にこれから注目したいところだ。

なにしろ"向井プロダクション"という看板をあげたところから、向井寛の企業政策がはじまるのだから、監督業よりもプロと製作にウエイトがかかるのは当然だ。いきおい演出よりも製作（プロデュース）に力がそそがれるのは当然なのだ。「寛ちゃんのプロデューサーの手腕は相当のもの」という評価があるのだから期待してみたい。

ところでこの日は不快指数が82という全員不快。黙っていても汗が出てくるのにこれが熱っぽいベッドシーンというのだから俳優もスタッフも楽じゃない。マンションの四畳半の部屋を黒い被幕で覆ってしまうのだから、風が入って来ない。フトン一枚に水城が均整のとれたキメ細い白い肌でパンティ一枚きりで寝る。それに里見孝二がかぶさって、のベッドシーンだ。

新藤兼人監督が「本能」で彼女の裸体の美しさにホレてタイトルバックに起用したほど、いいスタイルだ。豊かなオッパイももちろんいい。悶えるシーンとか、里見をだきしめるシーンとかを例によってセクシーに狙いどりするのだが、監督は「ベッドシーンは里見孝二が日本一多く演っている」といったものだから里見が「ベッドシーンも…じゃないですか、くさるなあ」と頭をかいた。つまり、ベッドシーンだけしかうまくない俳優と思われちゃ悲しいというのだ。演技の外にベッドシーン"も"と、おまけにしたいらしい。（その点は里見は割り切ってないね、ベッドシーンなら里見孝二！となぜ胸をポンとたたかないかだ、自信をもて！）

それにしても水城リカのパンティ一枚のセミヌードスタイルは美しい。なんでも母親が山形の庄内の産で、雪国の血をひいて餅肌なんだろう。演技力がもっとプラスされれば申分ないのだが―と撮影現場をみて感じられる。

とに角暑い、ポタポタ汗を流してベッドシーンをやるのだが、水城のワキの下のアセをアップで撮るというので、

助監督が霧吹きで、彼女の脇の下にシューとやったものだ。彼女の脇毛はそってから四、五日経ったとみえて、チョボチョボとはえ出している。

その汗を里見がチュウチュウ吸うのだから参ったねえ。カメラが回って顔をそむけた水城のカオが笑っている。里見が吸い終えたら笑いをガマンし切れず、クックックと笑いころげる。やっと「ショッパカッタ?」と水城。里見は「ボクだったら飛び上がって笑いころげるだろうね、ゴメンヨ」。とにかくこのごろのベッドシーンも撮り方の手法がなくなったもんだから、こんな異色シーンも飛び出してくるわけだ。

白い肌が魅力的な水城リカ

特集＊ずばり・いんたびゅう

『ハダカの…あなたは？』

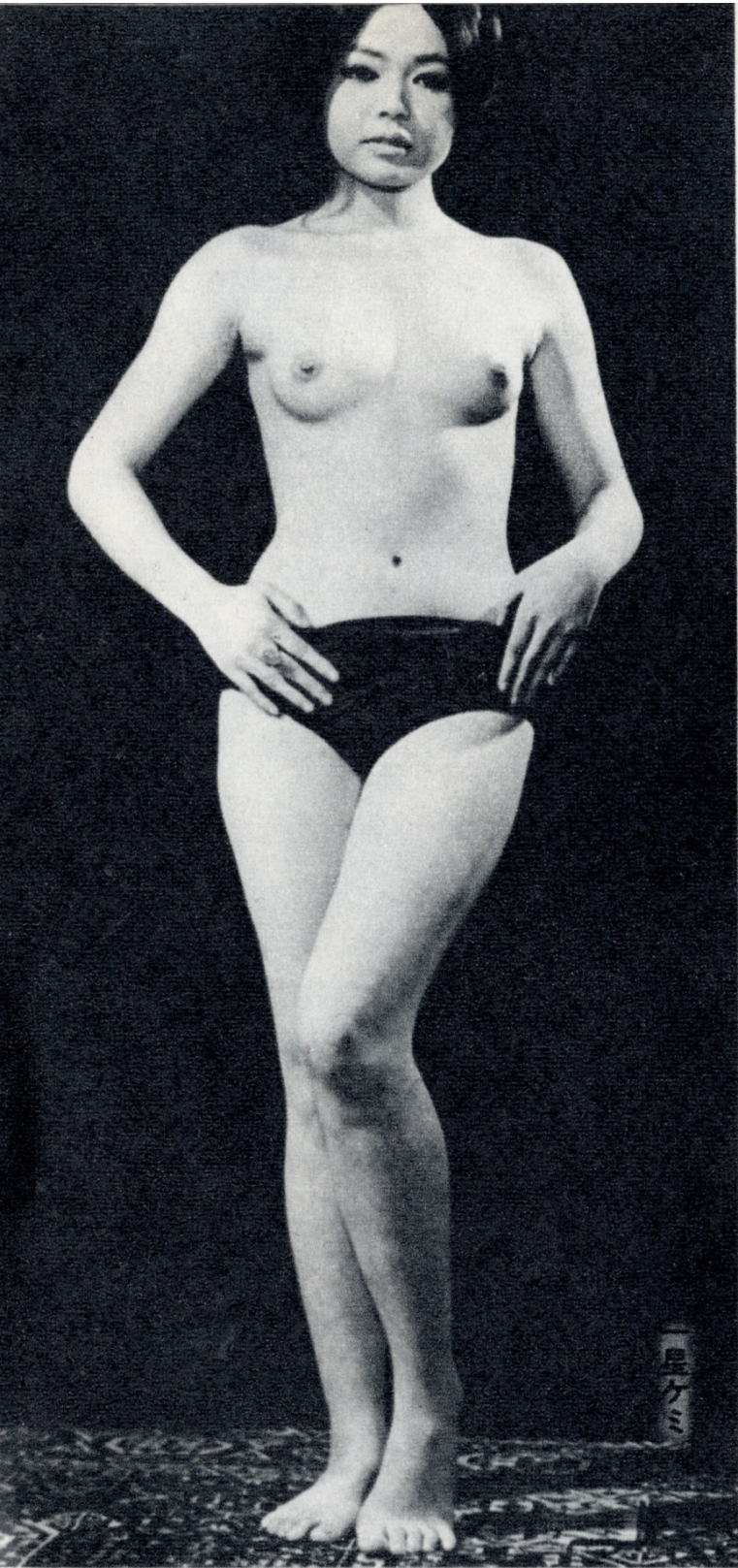
ＴＢＳテレビで「あなたは―」の街頭インタビューをやってなかなか好評だったが映画界のセクシー女優にも「あなたは？」の質問をあびせてみた。こちらはハダカと恋愛とちょっぴりセクシームードを加味した。註釈を加えないでストレートに返事をきいたのがつぎの答えだ。

香取 環

―身体で一番好きなところは
「足」
―ボーイフレンドは。
「三十人位いかな」

―熱烈な恋愛したことある。
「全然ないわ」
―いまサイフの中にいくら入っていますか。
「二万九千二百円ナリ」
―パンティは何枚あるか。
「二十七、八枚かな」

―ミニスカートは好き？
「たまにはく。場所柄によるわね」
―お小遣はいくらで用途は。
「あまり使わないな。交際費とタクシー代くらい」
（六本木・喫茶店で）

香取 環

美矢かほる

美矢かほる

—ボーイフレンドは何人?

「たくさんいるわ」

—熱烈な恋をしたことは。

「ありません。一生に一度はやってみたいなあ」

—いまサイフの中の金額は。

「八千円位いね」

—ハダカになることは。

「割り切ってるわ」

—オッパイについての所論。

「自分のはあまり好きじゃない」

—ミニスカートは好き?

「きらい。仕事だからしかたなくはくけど」

—パンティは何枚?

「二、三十枚くらいもっているわ」

—お小遣は月どのくらい?

「わかんない。あればあるだけ使う。いつのまにか無くなってしまうの」

(自宅にて)

一星ケミ

―ボーイフレンドは。
「六人」
―熱烈な恋愛の経験は。
「あります」
―お小遣いはどのくらい。
「五万円くらいね。ほとんど洋服を買ってしまうの」
―ハダカについて。
「脱ぐことは大いに結構じゃない、でも必然性がなくて脱がされるのはキライ」
―あなたのオッパイをどう思う。
「あまり格好よくない」
―ミニスカートは。
「たくさんもっている。大好きよ」。
（自宅にて）

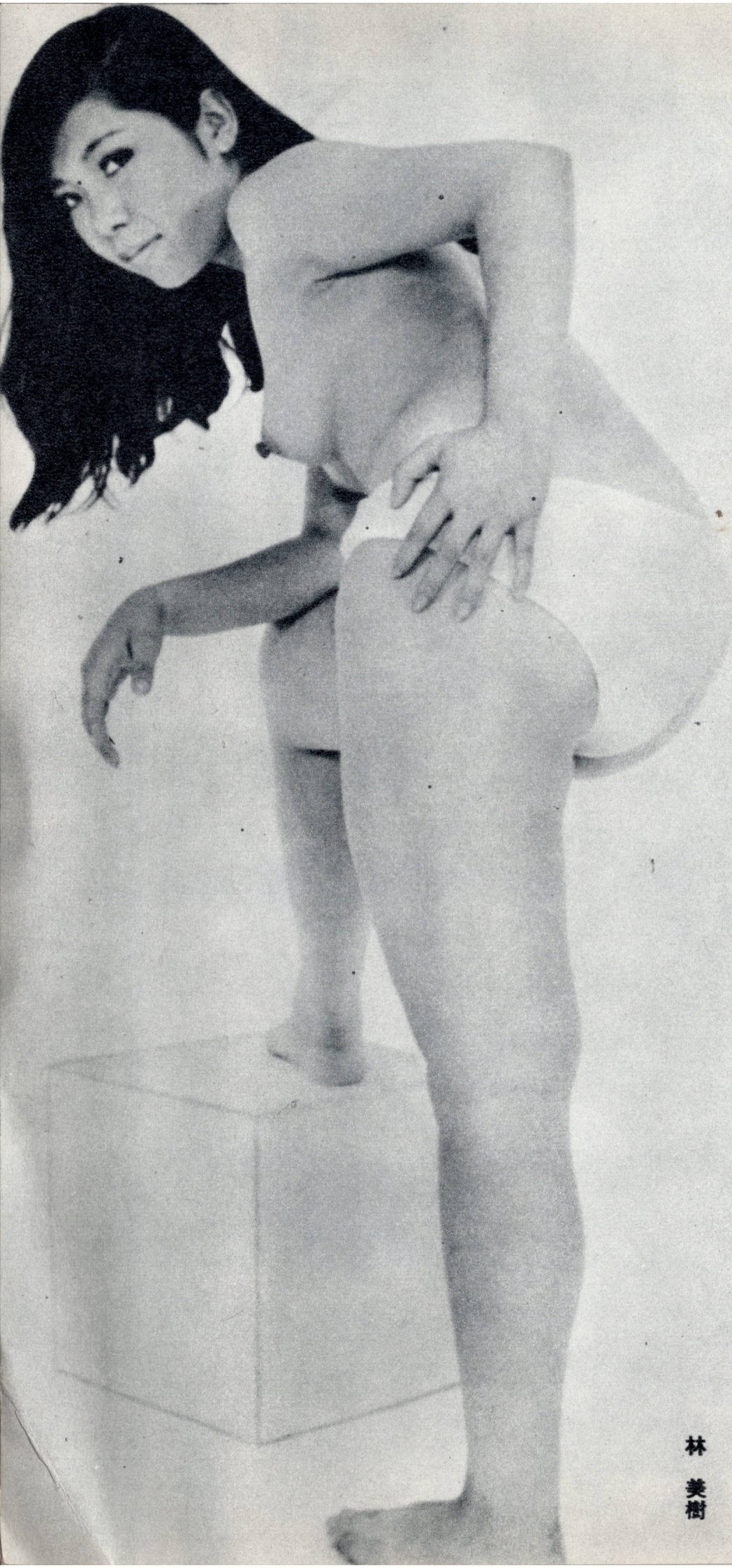
谷ナオミ

谷ナオミ

―ボーイフレンドは？
「一人もいない。スタッフの人とのおつき合いはかなりしているけど」
―熱烈な恋愛をしたことは。
「そうねフフフ…。私、浮気性なの。男の人はすごく好きだけど、惚れっぽくてあきっぽいから」
―お小遣いは月いくら。
「きまってません。なんとなくポーッと消えちゃう。主にタクシー代ね」
―三本指の豊原路子にいろいろ教そわったそうだが。
「マッサージ、歌などね。あのスペシャルのこと、ええ、学科だけで実習はまだやったことないわ」
―ハダカになることをどう思う。
「みなさんがよろこんでくれるなら今後も大いに脱ぎまくります」
―体で好きなところは。
「オッパイね（96センチ）。走ったり、ゴーゴ踊ってるとブルンブルンして邪魔になることもあるの」
（新宿・喫茶店で）

水城リカ

水城リカ

―ボーイフレンドは何人？
「五、六人かな」
―熱烈な恋愛をしたことある。
「ええありました」
―お小遣いは月いくら。
「きまっていない。ほとんど洋服代ね」
―いまサイフの中は。
「三千円くらい」
―ハダカになることについて。
「仕事だし仕方ないわねえ」
―自分の体の中でどこが一番好きか。
「同じくらいみんな好きよ」
―ミニスカートは好きか。
「あまり好きではないな。人

がはいているのを見るといいなと思うけど」
—お酒は好きですか。
「大好き。日本酒のほうが好きで五合位平気よ」
—遊びのほうは。
「遊びじゃあないけど、水泳が好きで、一年中泳いでいるのよ」

（向井プロで）

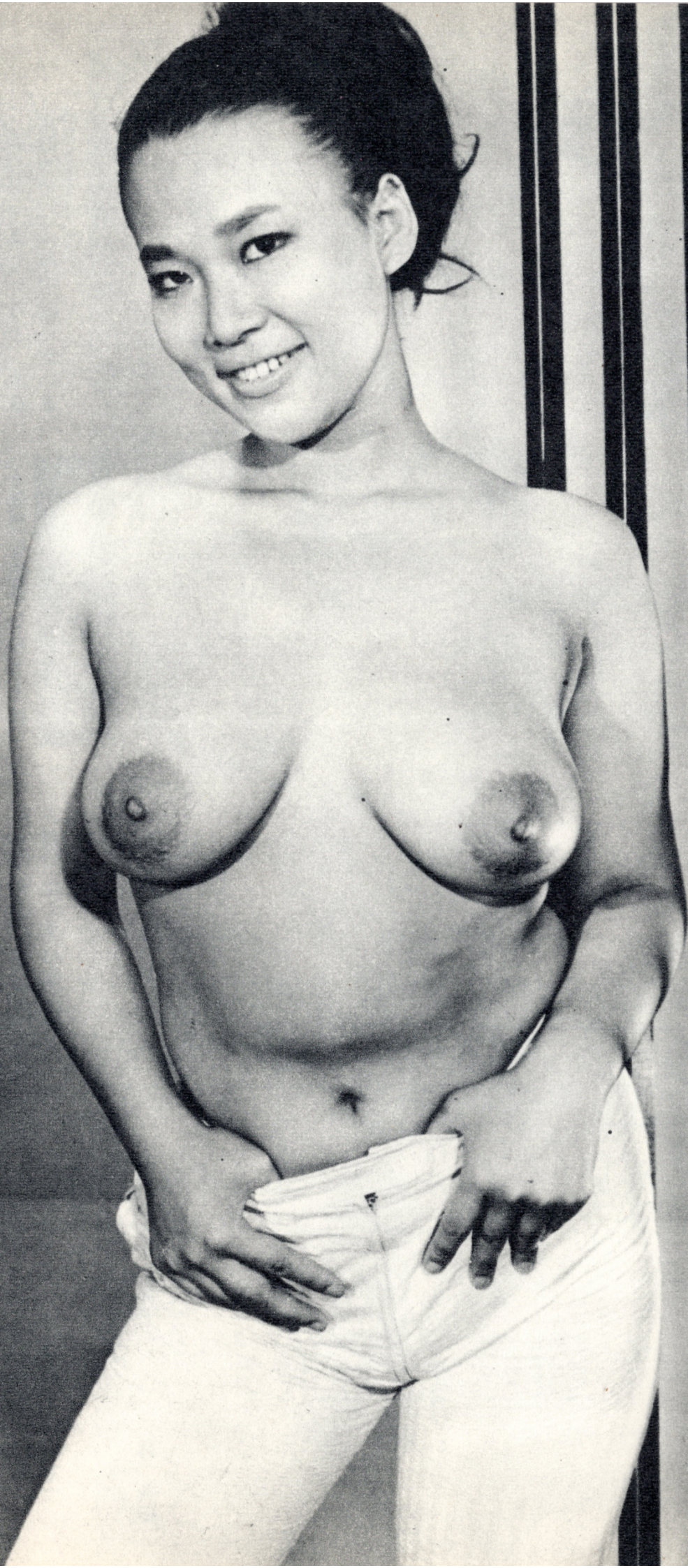
林 美樹

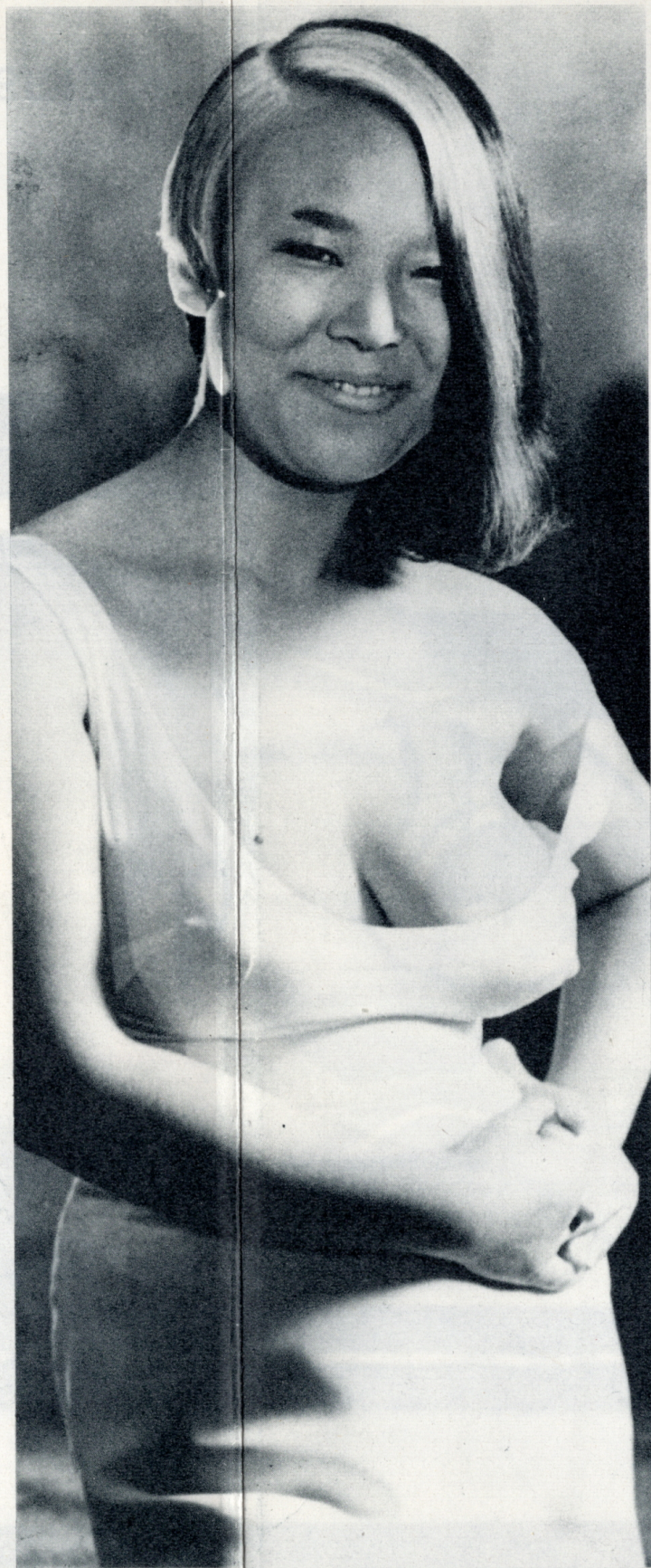
—ボーイフレンドは?
「なん人いるかわかんない」
—熱烈な恋愛したことは。
「ちょっとの期間だけね」
—肉体関係までいったの。
「ウッフフ」
—お小遣いは何にに使う。
「洋服と車代。調布に住んでるからタクシー代にかかる」
—幸わせですか。
「幸わせでない。でも仕事しているときは幸わせね」
—ハダカになることは。
「女性だからイヤだけど、仕事として割り切る」
—体の中で好きなところは?
「目です」
—おっぱいは?
「きらい。小さいから」

（スタジオで）

林 美樹

桜井啓子

新宿フーテン族からスカウトされ大島渚監督作品「無理心中・日本の夏」に出演中

魅力探険

18才　ハイミナールを1日に20錠のみ　ウイスキー角ビン1本を軽くのんでもさほど酔わない　酔うのは睡眠薬だけ　そしてゴーゴーを踊っているときだけが最高に楽しいというのだから驚き　さらに「私の感覚に合う人に会ったとき　私がちょうど欲しいと思ったら"じゃ　寝ようか"ってことになっちゃう」とセックスの方も超オープン　バスト102センチとくれぁ映画「無理心中・日本の夏」に起用した大島渚監督も「あきれ」ながらも悦に入っている

KEIKO SAKURAI
MIRYOKU TANKEN＊SEIZIN EIGA

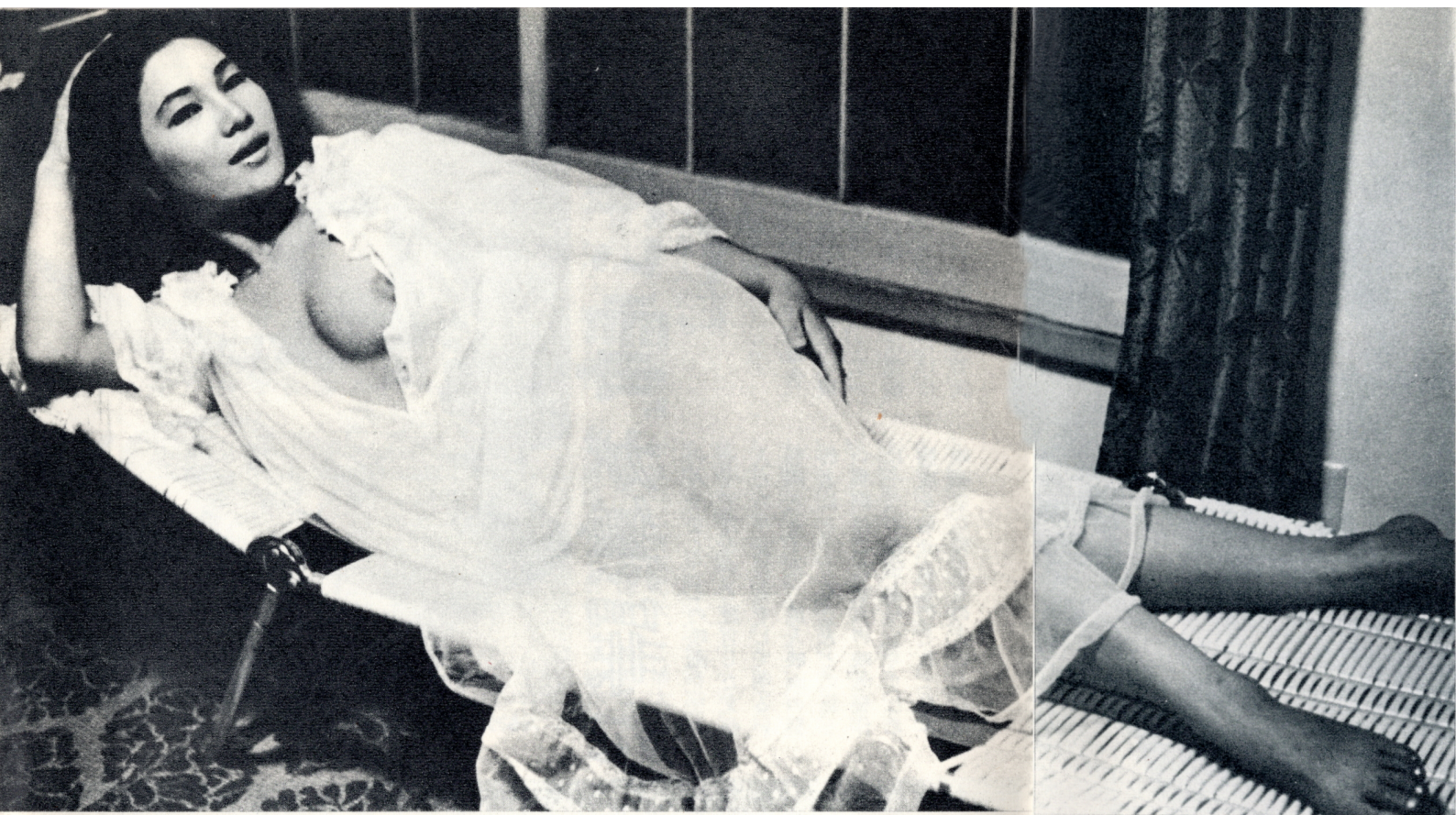
＊四畳半の優雅な生活

スター訪問
谷　ナオミ

写真下■毎日腹筋運動をやって痩せるのに懸命。おかげでグッと痩せましたわ……

写真右■趣味はギター　こんなスタイルで弾いているときが一番楽しい。歌の方でもハッスルしようかな—

写真上■あたし下にはなんにもつけないで寝るの、だからホレ、オッパイだってときにはカオを出すわよ

★メモ　本名福田明美、昭和23年10月20日生れ、十八才。豊原路子に師事（なにを習ったか不明）し、ことしの一月から映画界に入る。「スペシャル」「現代女性医学」「札つき処女」など目下売り出し中。

新宿は十二荘のアパートの四畳半でひとり暮しである。きょ年の十二月に博多から上京していまでは月四本からの作品で稼いでいる。作品傾向は決して良出来とは申しかねる作品ばかりで、彼女の演技力もまだまだ青い。そんなことよりも四畳半のナオミの部屋には三面鏡、サイドボード、洋服タンス、テレビ、冷蔵庫があり、さらにボンボンベッドにテーブルをおいてあるものだから、居場所に困るくらい。

「仕事でくたびれて帰ってくると寝るだけだし、これで結構よ」といたってのんびり。

「あんまり肥ったので、美容体操をやったり四㌔も痩せたのでうれしがってんのよ」といいながら一、二とやってみせたのがスプリングのついた腹筋運動用の体操具。どうやらオッパイも大きくなるらしい。そして「ヒマがあればギターを弾いているの」というだけあってなかなか器用にひきこなす。

サイドボードの上をみると黒塗りの神棚がある。なんでも創価学会の人たちに強制的に買わされ、置き場所がないので、放ってあるんだそうだ。入信はしていないが、買っただけというから彼女も人がいい。

テレビの下には「新聞」「雑誌」と区分けしたスクラップブック、彼女に関する記事やグラフを丹念に切り抜いて貼ってある。のんびりした表情や性格と違って実に几帳面なんだな。

『黒い雪』が無罪になるまで

日本映画史上に残る判決

映画「黒い雪」事件の被告、武智鉄二監督と村上覚氏（現日活撮影所長）は無罪となった。武智氏自身、有罪は覚悟していたといっていただけにこんどの無罪の判決は武智氏のみでなく、この映画をワイセツではないと証言した文化人たちや支持者をして明るい判例となった。成人映画の製作者にとってもこんどの新しい判例はこれからの映画製作に一つの希望とハッキリした態度を示せるものとして日本映画史に残るものといわねばならない。

もっとも問題視されたシーン

判決要旨をみると相沢裁判長は一時間二十分にわたる論告のなかで、「ワイセツ性の有無の判断は部分的な画面やセリフを取り上げて、それだけを評価するのではなく、映画の作品全体をみた上で評価し判断しなくてはならない」としており「黒い雪」には男女間の性交などを露骨に描写した場面はないが、普通人がヒワイな連想を起こす恐れのあるような男女の姿態や女性の全、半身裸像を撮影した場面はかなりある。しかしそれは性行為を否定的に描写したものと考えていい」と述べた。「映画は反米民族主義をテーマにしている点、さらに米軍基地に寄生する売春婦ら日本人のゆがみ、悲惨さを訴えている。またこの映画が映倫審査を通過しており、成人向に

■「変態」（日本シネマ）がニューヨークで上映され、好評だったのに続き、ピンク映画市場ではアメリカに輸出がさかんに行われている。
葵映画も「指にかける女」（監督・西原儀一主演・香取環）が輸出が決った。

■東京興映では七月二十五日封切「肉刑」（監督・小林白）につづき「若い女に手を出すな」「売春残酷」「情炎の砂」「異常者の血」と製作が決定している。

■「深い欲望の谷間」を製作・配給したアジアフィルムズの第二作目は「港の女郎蜘蛛」（特殊カラー）が八月中旬製作の予定。「ピンクではなく真紅の成人映画を作ります」と沢監督。

■性欲は人生のすべてといってよい。「性欲に限界はない」とこの運動をひろめているのが、豊原路子女史。薬や注射にたよらず、電気利用、マッサージのある刺激で八十才の老体も若さをとりもどし、若い人にはますます強くしてくれるというからすばらしい。あなたもいちど試されてみませんか。（中央線大久保駅前(369)5602

指定してある点、義務づけられている。製作者が映倫を全面的に信頼した。結局刑法上の処罰の対象としなければならないほどのわいせつ性はない。だから罪とはならない」という新しい判断を下した。

ワイセツと判断したナンセンスな人たち

こうした判例によって問題なのは映倫機関の存在が高く評価されたことだ。単なるロボット的性格のものという通念を与えてはならないとしている。「黒い雪」の審査をした二審査員が書類送検（起訴猶予）されたり、謹慎したりした。しかも映倫委員長の高橋誠一郎氏がこの映画をわいせつだと断じた点は、映倫審査員の審査のあり方や、良識をひどく傷つけた結果になったといえる。また公判で評論家の浦松佐美太郎氏が「ワイセツだ。アブナ絵という印象の連続、大衆をナメたものだ」といった証言、さらには東京母の会の理事長吉川政枝さんが「これが芸術なら日本は暗黒だ。悪に導き、婦人に侮辱を与えるものだし、嘆き悲しんだ」という証言は単なる生理的な判断にすぎず、むしろナンセンスなものとなった。

弁護人側の証人として小川徹、瓜生忠夫、井沢淳氏の評論家、作家の三島由紀夫、一橋大学心理学教授南博氏、映画監督大島渚らがそれぞれ芸術作品であり、ワイセツではないと主張してきた点をこんどの裁判長が正しく理解した上で判断したことはほめられていい。

武智監督は「予想していなかっただけにうれしい。映画の芸術性を認めてくれ、大胆な判決だった。精神生理学をとり入れたのは新しい判断だし科学、哲学性をとり入れてくれた。このあとは〝戦後残酷物語〟という日本女性に米兵がワイセツ行為をした点を直接的で攻撃的に映画にとる」と語った。

成人映画見たまま

「受胎」「奴隷未亡人」「肉刑」

採点
★は25点
☆は10点

ねばっこいベッド・シーン「受胎」

製作・Ⅱプロダクション鷹・国映配給

手形の書換えを条件に男の妻の肉体を要求され、双生児の妹を差出そうとした。ところが事情を知った妻の姉が、進んで関係する。だがそれとは知らなず、不妊手術までした夫が、妻から妊娠ときかされてがくぜんとした。

双生児の姉妹を加山恵子が性格の違う二役を演じわけて一応みせている。一人二役なんてのはいかにもマトを得たこの世界の発想であり、合理的な点ではうまいドラマ作りだ。

木俣堯喬監督がベッドシーンを粘っこくとりまくり、サービス満点。奈良、京都の風景をバックにパートカラーでみせて美しい。地の利を得ている。祝真理が東京から参加しているが、交流もいいだろうし、セリフはタドタドしいが可愛さがとりえだ。

演出★★加山の演技★★★
興行面★★★

「受胎」で新鮮な演技を見せる祝真理

平凡なストーリー「奴隷未亡人」

中央プロ製作・六邦映画配給

あの方が好きで一たん男に抱かれると気が狂わんばかりによろこぶ若い未亡人。彼女が初老の男に犯され、つづいてその息子ともできちゃう。つまり近親相姦である。女はそれがために自殺してしまう。

よくあるこの種の映画のストーリーである。若い未亡人は大いに結構だが、死なせずに息子とハッピーにした方がもっとおもしろいような気がするね。父のセックスの仕込みで息子が一人前になるなんてのは日本のどこかに風習として残っていそうである。渡辺護脚本演出は従来のものより

質的に低下させたのは残念。しかしベッドシーンの扱いはさすがにベテランらしく十分楽しめるみせ場を作っている。辰己典子はまだ青くさいし、どだい未亡人というのはミスキャストだ。

演出は★★☆辰見の演技★★　興行面★★☆

ベッド・シーンだけがかろうじて見られる谷ナオミ

ハダカのリンチシーンが見もの

「肉刑」配給＝東京興映

コールガールの時江（美矢かほる）が組織から逃げようとして見つかり、ボスと情婦の私刑をうける。さらに逃げた彼女は漁師（田本昌平）に助けられ、結婚する。ボスたちに追われて遂に女は自殺してしまうという悲劇。

小森白演出はさすがにベテランらしい風格をみせるが、後半がもたつく。とりたてて新しい素材ではないし、見せ場といえば情婦の松井康子が美矢にお互いハダカでリンチする場面。カラーも美しく、千葉海岸のロケも効果をあげている。松井がいささか栄養満点なスタイルで出ているのは彼女よ痩せなさいといいたい。

演出★★★　美矢の演技★★☆　興行面★★★

松井康子と美矢かほるのリンチ場面は異様な迫力がある

スクリーン エロチシズム 今月の新作紹介

「性の三悪」の谷ナオミ

性の三悪

＝大蔵映画配給

欲望のかげにひそむセックスの三悪とは

〈物語〉友達の正子（滝リエ）を頼って上京した久子（谷ナオミ）は正子が三郎（長岡丈二）と同棲していたり、敏子（林美樹）もマンションに住んでいてその変りように驚くのだった。三郎は久子を犯し、秘密クラブのパーティに連れてゆきマダムの佐知子（山吹ゆかり）に預ける。一夜明けた久子の生活は秘密クラブの売春組織の一員となっていた。麻薬を覚えた久子の体はむしばまれてゆく。監督＝小川欽也

女体蒸発

＝日本シネマ配給

魔の実験につぎつぎ蒸発してゆく若い女体！

〈物語〉ＯＬやバーのホステス（檜みどり）が突然蒸発してしまう。警察は捜査にのり出すがなんの証拠もなく事件は進展しない。大学講師の江尻（鶴岡八郎）は前の妻（藤ひろ子）と情事のあと別荘の地下の実験室に連れてゆくが、そこには蒸発したＯＬ・ホステスが全裸でしばられていた。彼女らは江尻の非情な実験のモルモットにされていたのだった。泉ユリ、一星ケミ、左京末知子、祝真理らが出演。監督＝福田晴一

肉刑

＝東京興映配給

うめきのたうつ凄惨なコールガールのリンチ!!

〈物語〉コールガールの時江（美矢かほる）は組織から逃げようとして見つかりボス（三海克郎）と情婦ナミ（松井康子）に裸にされリンチされる。彼女は機会を狙って逃げ田舎に行き海に身を投げてしまう。失神している彼女を救ったのは六年前時江に求婚した漁師の英司（山本昌平）だった。彼の妹（谷ナオミ）と時江を介抱するが、執拗なボスとナミ達の追手が迫るのだった。監督＝小森白

処女の血脈

＝関東映配配給

愛と性の因習をのりこえて生きる女の幸せは…

〈物語〉華道の内弟子彰子（加賀奈緒美）は出入の花屋の息子豊（野上正義）と恋仲だが、家元のゆき乃（藤ひろ子）は息子守道（爪生忍）と無理に結婚させようとする。守道は奇病のため足がなくその命も永くはない。恋に悩む彰子の前に因果な知らせが入る。豊

松井康子のリンチシーン「肉刑」

「処女の血脈」の加賀奈緒美

とは父親の違う兄妹だった。豊をあきらめ守道と結婚を決意した彰子は自分の父親は守道の父だと知らされ驚愕するのだった。監督＝山下治

女の媚態

＝関東ムービー配給

肌にしみついた女の体臭が復讐をかきたてる

〈物語〉浦部（久保新二）の母（檜みどり）は海女をしていたが三人の男（津崎公平・武藤周作・木南清）に輪姦され自殺した。十二年前の悲惨な出来事が忘れられない浦部は三人の男に復讐することを誓う。憎悪に燃え、三つの復讐が終った彼の心をいやしてくれたのは唖のユリ（中村昭子・新人）だった。一星ケミ、藤ひろ子が共演。
製作＝日本芸術協会・監督＝山本晋也

受胎

＝国映配給

色と欲の渦潮にもまれる京おんなの情炎！

〈物語〉華道の家元清観（佐藤洋）の妻春子（加山恵子）はなに不自由ない生活だが子供が出来ないのが不満である。妹秋子（加山恵子二役）とは双生児だがしとやかな春子と違い色好みで喫茶店を経営しバーテン（北川俊夫）をペットにし姉の夫とも関係していた。

「女の媚態」の中村昭子

「受胎」の加山恵子

清観は妻にあきたらず若い杜子（祝真理）と愛欲に狂っていたが原（御室丈二）に金を借り手形の書替えを条件に妻の肉体を要求され秋子を身替りにするのだが……。監督＝木俣堯喬

奴隷未亡人

＝六邦映画配給

男を求めて狂い悶える女の悲しい業!!

〈物語〉 愛する夫が急死した充子（辰巳典子）は信州の別荘で女中のアヤ（岩井まり）と二人で生活していた。夫の会社に出資していた鬼頭（大泉正）は別荘を充子の名儀にする代償に彼女の体を求める。鬼頭の息子（野上正義）はマリ子（谷ナオミ）と婚約していたが、充子の美しさに惹かれ結婚を迫る。父と息子と関係した充子の肌は男の肌に触れると目をさまし狂い悶える魔性の肌だった。製作＝中央プログクション監督＝渡辺護

「奴隷未亡人」の岩井マリ

「女体蒸発」の一場面

OPチェーン 映画ガイド

7/18～7/24	処女の血脈（関東映配）	女体蒸発（日本シネマ）
7/25～7/31	世界妖艶猟奇週間（大蔵映画）	
8/1～8/10	性の三悪（大蔵映画）	若妻の匂い（大蔵映画）
8/11～8/18	柔肌しぐれ（関東映配）	桃色の挑発（関東ムービー）
8/19～8/25	赤い肉（大蔵映画）	処女遍歴（大蔵映画）
8/26～9/1	悶絶（葵映画）	変質者（日本シネマ）

■編集後記

★暑中お見舞申し上げます。

前号の「わが映画セックス論」は近ごろ力の入った特集企画だとある映画評論家からおほめをいただいた。日本読書新聞の文化欄にも紹介されて、気をよくしていたものの、果して「こんな堅っくるしい特集ばかりやってていておもしろくねえぞ！」という声もきかれた。「もっとハダカをジャンジャン出して楽しくてセクシーな奴がいい」という意見もある。今月はそんなこともあってグッと柔らかい企画にしてみた。現場を訪ね、監督や、俳優たちに会うとこの暑いさなか汗を流して頑張っているさまをみるとなにが柔らかいのか？と反論されそうだ。

新藤監督の懸命さ、向井寛監督の割り切った前進ぶり、山本晋也監督の若さ、一段と飛躍してほしいと思う。

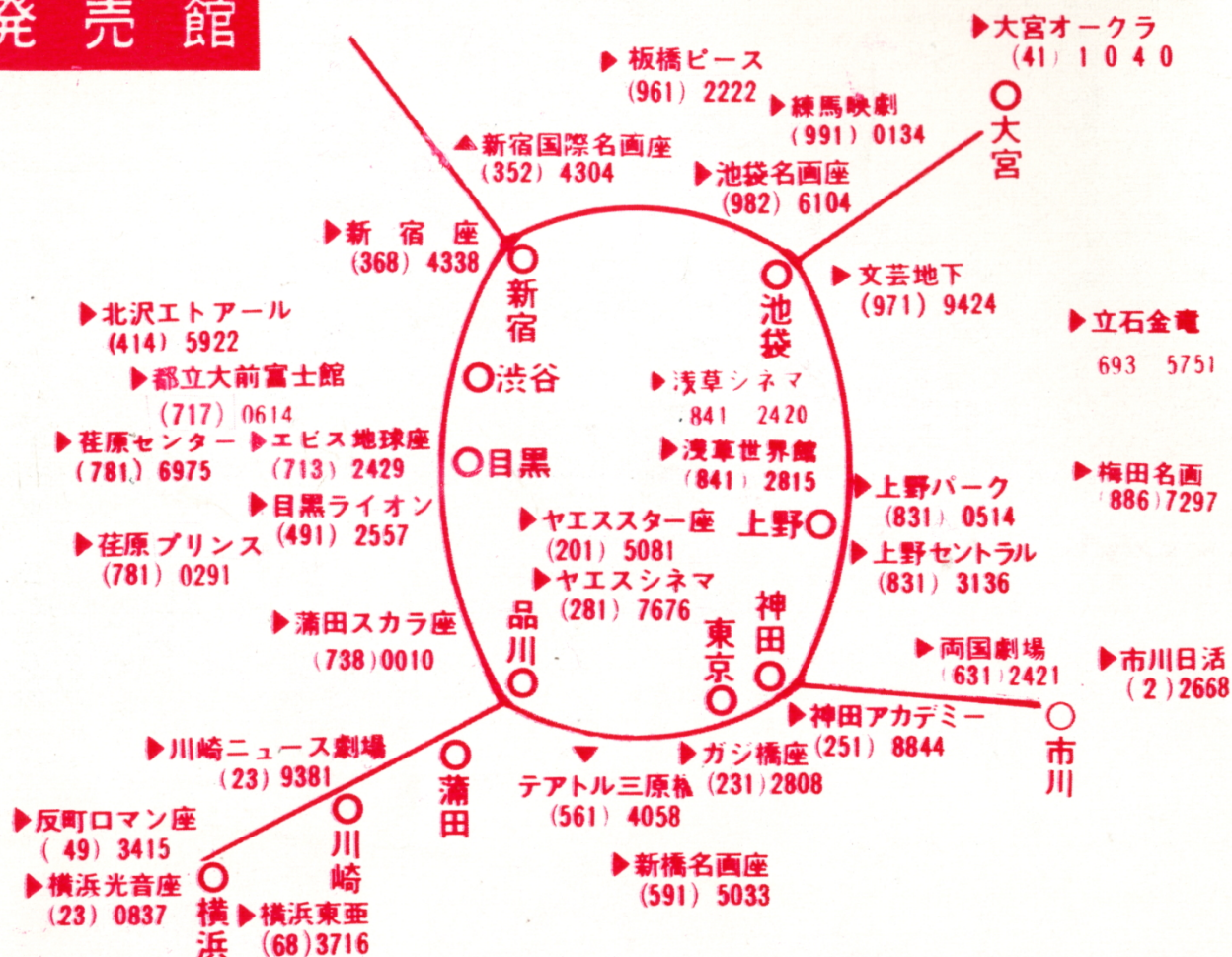
★大島渚監督が撮影中の「無理心中・日本の夏」は創造社製作・松竹配給作品だが、スカウトされた桜井啓子はこれまた超現代娘にふさわしい。ピンク独立プロでもこうした新人を探しあてたところからもう一つ新しい発展の可能性がうまれてくるのではあるまいか。実行に移してほしい。

★ことしは〝成人映画賞〟を設定して映画界の一つの導火線にしたいと企画している。脚本、監督、製作、男女優出演賞と月並みなものより〝大いに脱いだで賞〟なんてのはどうだ！なんていうのもいるが、これはよいアイデアである。

成人映画

■昭和42年8月1日発行 通巻第20号 毎月1回1日発行 編集兼発行人／川島のぶ子 発行所／東京都中央区銀座西8－10 高速道路ビル地下101号室 現代工房 電話／東京（571）6400 ■定価百円

成人映画
発売館

関東地区成人映画上映館一覧表

大阪

▲あべの名画座 (615) 5885
▲天六映劇 (351) 9138
▲吉本キネマ (451) 6793

神戸

▲大陽会館 (22) 5295

京都

▲八千代館 (22) 2250

四日市

▲ぼたん映劇 (2) 2311

高岡

▲中央劇場 (2) 6518

広島

▲福山名画座 (3) 2121

名古屋

▶名画座 (231) 3211
▶テアトル希望 (541) 3044
▶堀川映劇 (231) 6193
▶南映 (691) 6101
▶今池フジ (731) 4763

岐阜

▶朝日映劇 (3) 3321
▶テアトル岐阜 (2) 5487

福井

▶メトロ劇場 (2) 1772

岡山

▶白鳥座 (22) 5441

九州

▶長崎東館 (2) 1962

町田

▶町田映劇 (22) 3161
▶エトアール劇場 (22) 2828

横須賀

▶セントラル劇場 (22) 1004

静岡

▶新映 (2) 7350
▶沼津中央 (62) 5180
▶島田東映 (7) 2679

新潟

▶大要劇場 (23) 1751

長野

▶商工会館 (2) 2766

福島

▶若松大映 (2) 6220
▶平名画座 (平) 3839

宮城

▶仙台公園劇場 (56) 4369
▶気仙沼東映 (気仙沼) 821

青森

▶弘前ニュー東映 (2) 4013

秋田

▶能代国際 (2) 4207

ムンとする枯草の匂いと激しい昼下りの交り!!

おヘソで勝負

監督／関孝二
谷ナオミ
辰巳典子

悦びか、苦悶か、古都の夜に呻ぐ妖しい人妻の嗚咽!!

受胎

監督／木俣堯喬
加山恵子
祝　真理

成人映画

月刊「成人映画」通巻二十号　昭和42年8月1日発行　編集発行人　川島のぶ子　発行所／東京都中央区銀座西八ー一〇高速道路ビル地下一〇一号室　電話(五七一)六四〇〇　現代工房　定価百円